

弓道ながの

第50号

発行：長野県弓道連盟
会長 土川俊市
〒399-6303
塩尻市奈良井611
TEL0264(34)3063
編集：県弓道連盟
印刷：(株)成進社

巻頭言

若い世代とともに

長野県弓道連盟副会長 金原 正



公表するのは恥ずかしいのですが、私が初めて弓を持つてから今年で四十四年になります。

昭和四十五年、高校入学と同時に弓道班に入班したのが始まりでした。

今も手元に残っている第二十九回上信越弓道大会(小諸懐古射院)で落とした金的と昭和四十七年度北信高等学校弓道大会個人第三位の賞状は、大切な青春の思い出として私の宝物になっています。しかし、同時に「今まで何をしていたのか」という深い自戒の念にとらわれる元にもなっています。教員になってから複数の高

校で弓道部(班)を創ったり、顧問を務めたりしましたが、自身の修練には怠惰であったと悔やまれることしきりです。昨年、巡り合わせとはいえ、高体連の弓道専門部長と、それに伴い県弓連の副会長という「身に余る」以上の肩書を負うことになり、その重責に文字通り身も心も震える思いであります。

こうした立場になって、久しぶりに高校生の大会に顔を出す機会が増えました。生徒たちの若々しい射に様々刺激を受け、充実した時間を過ごせることに感謝しつつ、自らのエネルギーにもさせていただいておられます。そうした機会に生徒たちに話していることを紹介させていただき、巻頭言の責を果たしたいと思えます。

ただ前述のように私自身未熟者ですので、ご指導とご叱正をいただければ幸いです。

射技については、「きれいな残身(残心)を目指しなさい」、「残身(残心)が大切です」と繰り返し返してきます。「きれいな残身(残心)になるためには、きれいに離れなくてはならない。きれいに離れるためには、きちんとした会を造らなくてはならない。…そしてしっかりと胴造りのためには、正しく足踏みをしなければならぬ。つまり、残身(残心)に到るまでの七節の内、どこかが正しくなければきれいな残身(残心)にはならない」ということです。またある大会で、「何故、中らないのか。それは執弓の姿勢が正しくできていないからです」と指摘したことがあります。「執弓の姿勢」は射技に入る前の土台となる姿勢であり、土台をきちんとつくるのが大事だということをお伝えしたのです。日々熱心にご指導いただいている顧問の先生方には大変失礼に当たると申し訳ないのですが、「基

本の姿勢」・「基本の動作」・「執弓の姿勢」等について、もう少し意識することが必要なかなと感じています。そして、それらはすべて自分に対する戒めでもあります。少しですが弓を引く経験を積んでくると、今更ながらに基礎・基本の大切さが身に浸みて参ります。「今まで何も解っていなかったのだ」ということを痛感することもしばしばです。「今更何を…」と思いがちですが、その「今更」を大事にしていきたいと考えています。

「今まで何をしていたのか? 否、まだこれからだ!」。若い世代と共に精進していきたいと改めて思っております。中学生・高校生共々、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



「弓道なごの」50号を記念して

「弓道なごの」発行の思い出

初代広報部長 高井 忠史



「弓道なごの」の発行が、第50号になるとの連絡を、広報部長の杉田先生からいただき、もう

そんなになつたんだと感慨無量です。

振り返ってみると、それは平成十三年の八月、猛暑のなか県選手的選手権大会が松本の護國神社で行われたとき競技委員として参加していた私に、古澤博会長から、県弓連の広報紙と連盟史をなんとかして発行したい、北信越の各県では何年も前から発行している、無いのは長野県だけだ、競技の方は上位につけているし、範士の数も日本で八名もいる、役員会には協力をお願いするが、お前には先立ちで、この事業に協力してほしいと内々の話があった。

他に立派な先生、先輩がいる、その方々にお願いはいかがですかと申し上げたことがあります。

十三年十二月広報部が新設内定、翌十四年の役員総会では、会長提案というかたちで広報部の新設と新聞の発行

について提案され部員も決定された。

顧問に副会長の斎藤節朗先生、部員は各地区より一名、南信・北村彌昌、中信・百瀬正、北信・飯田秀樹、東信・高井忠史、広報部事務局として大山孝吉、部長は会長の指名で私となった。事業計画(案) 予算(案) について検討、内容についても細かく話し合った。

初めてのことなどで意見がいろいろと出て会議も混乱した。斎藤先生にはその都度、間に入ってもらい、他県の広報紙も参考にしながら、表題は「弓道なごの」に決定した。目標は会員への情報提供、記録保持、紙面を通じての弓道知識、技術向上を目標として、年四回発行、部数は三〇〇部とし送付先は役員、支部長、支部会員、事業部員、大学、高校ほか北信越各県にも送付することとした。

企画にあたり群馬県連の佐京先生、新潟県連の東條先生、小林先生、福井県連の山本先生、富山県連の岡本先生、石川県連の宮野先生から資料や、具体的なご指導をいただき改めて心から感謝を申し上げる次第です。

「弓道なごの」毛筆題字では、会員で書家の両角閑堂先生にご協力をいただきました。

紙面の内容は、部長において原案を作成し、原稿の依頼、締切日を決定し進めていきました。

全体の仕様はA4仕上り、縦四段組、一行の文字数、十頁、スミ一色、二折、上質紙使用、校正二回、写真十点程度、簡易印刷、二穴あけ、發送用封筒印刷(大中小)、タックシールなどを含め業者については随意契約とした。

発行するまで、心身の苦勞が多くあり、寝られない夜がいく日も続く生活でした。

初めての事業であり皆様のご協力で現在のような立派な広報紙となりました。特にご協力、ご指導いただきました(株)長野企画会議の内山氏に御礼申し上げます。



▲ 助言をいただいた当時の範士の先生と広報部員(諏訪市にて)



▲ 平成14年 第1回 広報部会議(長野市)

祝
教士
昇格

教士昇格を振り返って

上小支部 教士六段 高木 涼子



平成二十六年二月八日の百二十年ぶりの記録的大雪の初日、高速道路では渋滞が始まり審査会場に十時に到着。親友A先生が受付けしてくれました。おかげで受審できました。実はマイカーでの遠出は始めてで胸中不安の塊でした。到着時には疲労や緊張というより、安堵感と達成感で出来上っていました。そういう状況での審査です。から思わぬ力が発揮できたのでしよう。今後はいかなる状況下でも力が発揮できる為にはどのような練習をしたら良いのかを我が身に嫁せられた気持ちです。

道場に行けなくなった時、畦道で指導してくれたI先生。練習すればするほど下手になると伝えたら今は亡きH先生に励ましの手紙を頂戴しました。手の内がわからないと伝えたらI先生が資料を送って下さいました。女性らしい弓に拘っていたとき「いい身体を貰った両親に感謝して身体を生かした弓を引けば良い」とT先生に言われたことで弓道に取り組む姿勢が変わりました。低段の頃初めてお会いした雲上の範士、O先生には弓友皆師である教えられ、数十年後講習会で第二介添を依頼されたときは感激でした。弓で人をつくると教えて下さるK先生、稽古日に指導して下さいるM先生

と自然に集まってくる弓友達。指導日に担当外でも応援に集まって下さる丸子指導部の面々。手作りのご馳走で和ませて下さるT先生。年に一度の出会いを楽しんで来た錬士講習会。弓道を通してつながっていたことに感謝すると同時に、これからも諸先生方弓友弓士の皆様と共に健康で末長く弓道に親しんでいくことが私の目標です。

もともと自己対決できなかった弱さから始めることになった弓道ですが、何度も審査を受けることで可も否も受け入れられる自分へ成長できたように思います。そして結果ではなく過程の中に反省や喜びがあることを体験しました。

これまで与えられ支えられてきたように自分も人に接して行きたいの思いがあります。諸先生方弓友弓士の皆さんと弓道を語り合い、練習を積み重ね、弓道に親しんで行く中で、微力ながらも弓道会の発展に貢献できるものと信じていますので今後ともよろしく願います。

最後に自分は猪突猛進タイプの人間なので、視野狭窄にならないよう弓以外の文化芸術にも努めてふれて行きたいと考えています。この度は投稿の機会をいただきありがとうございます。

優秀
地連
表彰

五月二日、第六十五回全日本弓道大会の開会式で平成二十五年度優秀地連表彰が行われ、土川会長が長野県弓道連盟の代表として第二位の表彰を受けました。



北信越地区指導者講習会に参加して

飯伊支部 教士六段 藤澤 敏子

去る五月二十四日、二十五日に県営富山弓道場にて標記の講習会が開催され、長野県から六名の受講生が参加した。講師は昨年に続いて二年連続の、全弓連中央講師の須田定雄範士(群馬主任)と、飯島正大範士(東京)のお二人だった。須田主任講師のご挨拶の中、受講生は地域に帰り伝達する義務があることを強調され、受講生一同背筋を正す気持ちでお聞きした。一日目は須田講師の迫力ある矢渡(介添は受講生)からはじまり、その後受講生が一手行射を行い講師をお聞きした。全体講師では、体配に関しては特に言うことはなし、リズムよく足が揃い良い、ドミノは無かったと嬉しい講評を頂いた。が、地域に帰り伝達をする為に、自分が納得できるためと個々を講評すると言われ、それぞれ手厳しい指摘をいただいた。動作の間合いをとる。上長下短の弓を引くには、見た目上の型の良さではなく、手の内を整えたら最後まで手の内を活かすよう、それを維持する心構えが必要である。その他、恭敬敬愛の心を持ち、



人 弓具 場所に対して 敬う心、労わり慈しむ心、自分自身を慎む心、で行うのが動作である。心が無い動作は何の意味も無いとその後も何度も注意があった。

又、飯島先生より、いかなる時もおぶせ足はしないと申す中での、かぶせ足をして頂き、須田先生からも、飯島先生の応用的な方法で行うが良いと言われた。

講師講話では

一、伝達五年目となった四項目の注意点(一、入退場について 一、開き足について 教本第一巻七十七ページから図解、写真入りで説明までしている動作である事。

一、矢番えについて 教本第四巻二百四十ページの矢番え動作のとおりである。一、かぶせ足については、いかなる時もしてはいけない

二、ワシントン条約に関わる鷲・鷹等の矢羽根の件。購入した人の名前

が挙がっていて事情聴取されている。弓道界の中では伝統的文化ではあるが、色々な事情を鑑みて弓道連盟の主催事業は、使用禁止の方向へ向かっていると申すです。

三、昨今大きな社会的問題となっているセクハラ・パワハラについて。指導の時、不快感を与えるような事をしない、注意の言葉だけと思っても暴言と捉えられることがあるので言動に充分注意して下さいとの事。

以上の伝達事項が伝えられた。

二日目は射礼研修から始まった。まず指摘されたのが、位どりの打ち合わせの仕方。審査前の模範演武の時など和服を着た正装した後では行わず、着替えるの前行う事。多人数での射礼は



必ず真の身なりで行う事。持ち的、一つの射礼では絶対の条件は、自分達で決めた本座に戻るといふ事。射術に関しては、弓道八節は一節一節の考え方はなく、全て繋がって行くように運動能力を満遍なく使い、バランス良く行射するようにと言われた。射礼研修の後、班別で個人指導の時間を取っていただいた。今後個人が再度取り組む姿勢について指摘をして頂き有り難かった。緊張し体力的にも厳しい二日間ではあったが、先生方の、受講生への接し方等々教わる事の多い講習会だった。

北信越地区指導者育成講習会受講報告

松本支部 錬士六段 森 一郎



このたび、五月二十四日および二十五日に当県の県営飯田弓道場で行われた北信越地区指導者育成講習会を受講する機会をいただいた。

講師は小宮栄子範士、本多政和範士で、北信越五県から三〇名の受講生が集った。

一日目の午前、一手行射を見ての講評があり、全体として以下のような指摘があった。

な指摘があった。

矢番え動作を弓道教本第四巻(二四〇〜二四一ページ)の記載のとおり丁寧に行うこと。
足踏み、胴造り、物見、左右の肩の据わり、両肩を結ぶ線と縦の線が正しい形に納まって、正しい的付けになるようにすること(後掲③)。

体型を活かした自分の矢束を取れるようにすること(後掲⑤)。矢束は矢羽で判断せず骨格で判断すること。
開き足は弓道教本第一巻の七七ページを参考に、しっかりと腰を切り、膝を被せて回るようにすること(後掲④)。回った際、前の射手とずれた場合は、回りながらではなく、回りきってから修正すること。

午後には講話があり、概ね以下のような内容であった。
「弓道」誌の七六八号(二〇一四年五月)一〇〜一三ページの記事に記載されている今年度の三つの指針の「弓道教本に則った「基本」の指導」「全国統一した指導法の徹底」「指導の

一貫性」そして、五つの指導課題の「①審査席と退場口とが並列に近い射場の足さばきについて」「②立射の射手が坐射と一緒に持的射礼「物見返し」を行う場合について」「③正しい的付けについて」「④開き足について」「⑤矢束の長短について」に関する説明。

指導者の資質として、セクシユアルハラスメント、パワーハラスメント、暴力行為(言葉の暴力を含む)のなように留意すること。「倫理に関するガイドライン」が全日本弓道連盟のWebページに掲載されているので、確認しておくこと。

弓道競技規則が本年四月一日に改定されたこと。これもWebページに掲載されていること。

矢羽について、平成二十四年三月五日付け「密猟された猛禽類(希少野生鳥獣)の羽根を使用した矢羽の件」で通知しているが、正規流通品を使用すること。

講話の後、前掲①について、改めて説明を受けながら、受講生が実際に動作を行った。具体的には、射場を二つに分けた場合など、後ろの射場では、退場の際、揖を行う場所へ真っ直ぐに進むと、礼の対象である審査席がほぼ真後ろになることがあるが、このような場合には、回り込んで向

きを変えてもよいとのことである。

また、二日目午前の射礼研修で、五段受有者は持的射礼、六段受有者は一つの射礼を行ったが、前掲②の立射の射手が持的射礼を行う際について、立射の役を作り、具体的な動作を確認した。



公益財団法人全日本弓道連盟 倫理に関するガイドライン

第1条(本ガイドラインの目的)

本ガイドラインは、弓道関係者が、セクシュアルハラスメント(以下セクハラという)、パワーハラスメント(以下パワハラという)、暴力行為等を行うこと、又はその被害を受けることを防止し、もって公益財団法人全日本弓道連盟(以下本連盟という)の健全な運営と弓道関係者の倫理の維持向上を図ることを目的とする。

第2条(本連盟の基本理念)

本連盟は、弓道の練習や競技の場におけるセクハラパワハラ暴力行為等を防止するため、関係者に対する指導を徹底し、その認識を深め、常に注意を喚起するように努めるとともに、仮に問題が発生した場合には、関係者の名誉やプライバシーに配慮しつつ、公正な立場から厳格に事実を調査し、再発の防止に全力を尽くすものである。

第3条(関係者の責務)

弓道関係者として弓道の指導、競技等に関わる者は、各自が弓道という日本固有の伝統文化の担い手であることを深く自覚し、指導者・競技者としての自らの品位を損なうことのないよう努めるとともに、人種・国籍性

別等いかなる理由による差別をも許すことなく、常に他者の人格を尊重して行動しなければならぬ。

第4条(セクハラ等の防止)

1. 本ガイドラインにおいて、セクハラとは、相手の意に反し、不快にさせるような性的な行動及び言動で、これにより、本連盟における相手の立場や、本連盟にかかる相手の活動環境を悪化させることをいう。

2. 弓道関係者は、自らがセクハラを行うことがないよう、常に相手の人格を尊重して行動し、特に、以下の点は十分に意識して行動しなければならない。

- (1) 本人としては軽い冗談や親近感を表すつもりと言動であっても、相手の意に反し、不快にさせる場合があるということ。
- (2) 指導等の目的であっても、相手の身体に触れるときは、本人の了解を得るとともに、相手を不快にさせないよう配慮すること。

- (3) 相手が不快に思っていると感じた場合は、決して同じ言動を繰り返さないこと。
- (4) セクハラに対する相手の対応によつて、指導や評価に関して不公平・不利益な扱いをしてはならないこと。

(5) セクハラは、男性が被害者となる場合や同性間で起こる場合もあるほか、練習中や競技中だけでなく、その後の飲食の場等生活全般でも起こる問題であること。

3. 弓道関係者は、セクハラを受けた者が、勇気を持って拒絶の意思を示したり、身近な者や本連盟の相談窓口にご相談したりできるような雰囲気や環境を作るように努める。

4. 弓道関係者は、セクハラを行っている者、またはセクハラ被害を受けている者を知ったときは、本人に忠告したり、助言したり、身近な者や本連盟の相談窓口にご相談したりするなどして、セクハラの防止に努める。

第5条(暴力行為の防止)

1. 本ガイドラインにおいて、暴力行為とは、相手の体に対する物理的な暴力のほか、脅迫的・威圧的・侮辱的な言動によつて、相手を精神的・身体的に傷つける行為のすべてをいう。

2. 弓道関係者は、自らが暴力行為を行うことがないよう、常に相手の人格を尊重して行動し、特に、以下の点は十分に意識して行動しなければならない。

- (1) 相手が指導に従わなかったり、意見が食い違ったりした場合でも、よく話し合い、第三者の意見も聴くなどして、相互に理解し合うように努めるべきこと。
- (2) 指導や懲罰等の目的であっても、決して暴力行為を行ってはならないこと。

(3) 脅迫的・威圧的・侮辱的な言動(人格を否定するような言動や、存在を無視するような態度、人を揶揄するような言動も含む)は、物理的な暴力以上に人を傷つける場合があること。

(4) 練習や競技の場など、弓や矢を用いたり保管したりする場所での暴力行為は、生命や身体に対する重大な結果につながりかねない危険を有していること。

3. 弓道関係者は、暴力行為を受けた者が、勇気を持って身近な者や本連盟の相談窓口にご相談できるように努める。

4. 弓道関係者は、暴力行為を行っている者、または暴力行為の被害を受けている者を知ったときは、本人に忠告したり、助言したり、身近な者や本連盟の相談窓口にご相談したりするなどして、暴力行為の防止に努める。

第6条(パワハラ等の防止)

1. 本ガイドラインにおいて、パワハラとは、地位・立場・職権等の優越を背景にして、相手に義務のないことを行わせたり、人格や尊厳を害したりするような言動で、これにより、本連盟における相手の立場や、本連盟にかかる相手の活動環境を悪化させることをいう。

2. 弓道関係者は、自らがパワハラを行うことがないよう、常に相手の人格を尊重して行動し、特に、以下の点は十分に意識して行動しなければならない。

(1)業務や指導等の一環としての行為であっても、一般常識に照らして遂行不可能な課題やノルマを課すことや、嫌がらせなどの不当な目的で命令をすることは、パワハラとなる行為であること。

(2)セクハラや暴力行為は、立場や地位の優位性等を背景に行われれば、パワハラにもなる行為であること。

(3)パワハラは、上司と部下、指導者と被指導者などの間だけでなく、同様の立場や地位にある者同士の間でも、何らかの優位性が背景になれば、起こりうる問題であること。

第7条(相談窓口の設置)

1.本連盟は、本ガイドラインの目的を達成するため、セクハラ・暴力行為等に関する相談窓口を本連盟の事務局に設置する。

2.相談窓口の相談員には事務局の職員があたり、善良な管理者の注意をもって、通報等に関する秘密を保持管理する。

3.相談窓口には、外部相談員として、常時最低1名の外部の弁護士を選任する。

4.通報者が希望した場合、および通報を受けた担当相談員が適当と判断した場合に、外部相談員が相談を担当するものとする。

第8条(相談窓口の利用)

1.相談窓口では、本連盟の活動に関係して行われたセクハラ・暴力行為、パワハラ及びこれらに類する不当または不法な行為についての相談を取り扱う。

2.本連盟の関係者、及び過去に関係者であったことのある者は、相談窓口を利用することができない。

第9条(相談者の保護)

1.本連盟は、相談窓口で把握した相談者の氏名、連絡先、相談内容については、その秘密を厳格に保持し管理する。

2.本連盟及びその関係者は、相談者が相談したことを理由に不利益な取扱いを受けることがないように、必要かつ適切な措置を講じる。

3.相談窓口に対する相談が匿名でなされた場合であっても、相談内容の真实性について相当な根拠を示す情報や資料が示された場合には、顕名の相談があった場合に準じて、調査を実施する。

第10条(相談事項に関する調査)

1.相談窓口は、相談に関する事実調査を行うにあたり、必要に応じて、本連盟の事務局職員、倫理委員会等の必要な関係部署や関係する加盟団体に協力を求めることができる。

2.本連盟は、相談窓口から前項の協力を求める連絡を受けた場合は、速やかに、関係者・関係部署・関係団体に對して、相談窓口への協力を要請する。

3.相談に関する事実調査に携わる者は、善良な管理者の注意をもって、相談の内容及び相談者に関する秘密を保持し管理する。

第11条(調査結果の報告及び是正措置)

1.相談窓口は、調査の結果、不当な行為や不法な行為の存在が存在すると判断した場合は、速やかに、本連盟の倫理委員会に調査結果を報告する。

2.前項による報告を受けた倫理委員会が必要と認めた場合、本連盟は、速やかに、本連盟の定める手続きに従い、相当な是正措置及び再発防止策を講じる。

3.本連盟は、前項の是正措置が完了した後は、関係者の名誉やプライバシーに十分に配慮した上で、速やかに、相談者に対して、調査結果とは是正措置の概要について通知する。

4.本連盟が、類似の問題の再発防止のため、社会的責務を果たすため等の社会的合理性ある理由から、相談事項、調査結果、是正措置について、公表する必要があると判断した場合は、関係者の秘密保持に十分に配慮した上で、事前に相談者の同意を得て、必要な限度で、これらを公表するものとする。

第12条(相談窓口及び是正措置の改善)

本連盟は、相談に関する是正措置及び再発防止策が十分に機能しているか、相談者が相談を理由に不利益な取り扱いを受けることがなかったか等について、随時確認調査を行い、その情報に基づいて、相談窓口の運営の改善や、追加的な是正措置及び再発防止策を講じるように努める。

第13条(ガイドラインの変更及び補足)

1.本ガイドラインは、理事会の決議により変更することができる。

2.本ガイドラインに定めのない事項については、理事会の決議により、必要に応じて、本ガイドラインの趣旨にそった内容の補足的な規程を設けることができる。

付 則

1.本ガイドラインは平成25年11月28日制定

相談窓口について

この相談窓口は書面(FAX)電子メール、郵送にて相談するものとする。

FAX 03-3481-2398

メール soudan@kyudo.jp

郵 送 〒150-8050

東京都渋谷区神南1-1-1

岸記念体育会館内

(公財)全日本弓道連盟相談窓口係

弓仲間紹介

池田町弓道会

大北支部 四段 丸山 昇一

五月に入り、水のはられた田にアルプスの山々が映り清々しい季節になりました。

池田町弓道会の歴史は、昭和八年ごろから弓道愛好者によって組織されて、昭和三十八年十月に第一回総会を開き池田町弓道会と命名発足しました。

会の師範には、松本市の範士八段百瀬豊先生をお迎えして指導を受けました。そして昭和三十九年に池田町支部が承認されました。当初は小中学校の協力もありましたが、会員の減少により昭和六十一年大町支部と池田支部が統合して現在は、大北支部として活動しています。

又この町には教士八段(故)平林久



男先生の養正館弓道場があり先生のお人柄もあり、みんなから山の道場と呼ばれ指導を受けに行っていました。しかし現在は残念なことにその道場は今使用されていませんが、先生の思いはこの町の弓士に受け継がれ人一倍弓道好きが多く、道場は夜九時まで使用時間の制限もないため、朝早くから一日中いつでも誰かが弓を引いています。

私が弓道を始めて今年で十年目になります。初めの頃はなかなか上達せず、一年位は的中ならず自分には弓道は無理かなといつも思っていました。しかし先生や先輩のご指導によって一つずつ昇段していくと、本当に辞めなくて良かったと思うとともに、自分の人生の宝が出来たことと、人の優しさを嬉しく感じています。

昨年十月には池田町弓道場開設五十周年記念大会が開催され多くの弓士が見事な腕前を見せてくれました。

アルプスの山々を見ながらの練習、道場には、静かな時間が流れています。

大会結果

御奉射大会

○平成26年3月17日(月)

徳高神社弓道場

参加人数・高校97名、一般43名 合計140名

▲高校個人の部

- 1位 吉澤 紗樹(豊科女子)
- 2位 鈴木秋桜香(志学館A)
- 3位 黒田あゆみ(志学館A)
- 4位 吉池 楓(穂高商業B)
- 5位 林 瑞希(松商学園B)

▲一般個人の部

- 1位 小田切祐典(小諸・懐古)
- 2位 関 正幸(松本M)
- 3位 丸山 昇一(池田B)
- 4位 野田 竜成(ありあわせ)
- 5位 堀内 英征(上小選抜)

▲高校団体の部

- 1位 志学館A(黒田あゆみ、鰐川日南子、鈴木秋桜香)
- 2位 志学館B(中村海斗、吉江雅平、下島佑太)
- 3位 蟻ヶ崎A(栗林太地、大澤巧、鈴木愛永)

▲一般団体の部

- 1位 小諸・懐古(小池瑞穂、栗林正直、小田切祐典)
- 2位 善我館A(堀田健一、広田義照、土川俊市)
- 3位 ありあわせ(塩原静雄、村山弘信、野田竜成)

第29回 塩尻市弓道大会

○平成26年3月23日(日) 塩尻市弓道場

参加人数・中学4名、高校169名、一般18名

合計191名

▲個人の部

- 1位 波多腰千夏(県陵E)
- 2位 渡辺 晃(茅野)
- 3位 坪田 穂高(美須ヶ丘A)
- 4位 上原 恵美(青峰C)
- 5位 黒田あゆみ(志学館A)

▲団体の部

- 1位 青峰B(尾崎明香里、尾崎拓磨、青木幸太郎)
- 2位 県陵E(上杉美波、波多腰千夏、高木萌)
- 3位 青峰C(登玉梓沙、原日向子、上原恵美)

第69回 国民体育大会 弓道競技

長野県2次選考会

○平成26年4月5日(土)、12日(土)

松本市弓道場、須坂市弓道場

■2次予選通過者

▲少年男子 9名

- 塚原 優太(伊那弥生ヶ丘)
- 小池 邦憲(諏訪二葉)
- 小野 隆哉(松商学園)
- 富濱 紘夢(岡谷南)
- 中村 駿介(長野吉田)
- 松坂 仁樹(上田染谷丘)
- 高木 友輔(長野日大)
- 青木俊太郎(長野日大)
- 金澤 太陽(岩村田)

私と弓道

長野支部 三段 高山 三良

二匹の愛犬ピアとプーチとの散歩コースの途中に長野運動公園弓道場があります。弓道始める前から道場を覗いていました。同僚の五段の女性の影響もあって、定年になつたらやってみようと思ひ平成二十二年の初心者弓道教室に入りました。教室の先生は同町の知り合い。クラブの講師の先生お二人も知り合い、弓具店の奥さんまでも知り合ひでした。知り合ひの多い中で弓道人生が始まりました。教室の時間中に以前弓道をされていた方のご家族から「巻藁処分したいけど欲しい方いますか」と電話が入り、私は手を上げていただきに行きました。巻藁だけでなく竹弓三張り、竹矢も頂いてき



ました。最初から竹弓です。何か弓道との縁を感じます。母の介護の傍ら、週三回くらいの稽古。自宅では時間をみつめて巻藁をしています。弓道は一人でやるなど聞いたことがあります。先生方のご指導、友人からのアドバイス、見取り稽古から得るもの、息合ひ、間合ひなど集団でなければ得られないものだと思います。

運動公園クラブでは矢渡の稽古をして毎月発表しています。昨年素敵な女性二人とチームが決まり、稽古を始める前に団結ランチをしてチームワークを高めました。遠的場に着座の目印をつけて繰り返し稽古をしました。わからないところが出てくると、先生ばかりでなく近くの先輩を捕まえては教えていただきました。私は第一介添、常に射手のための介添を心がけ、三人が呼吸を合わせて、動作を合わせるポイントを意識しました。発表当日、少しのミスはありましたが、無事終わりました。

弓の楽しさと難しさが少しわかってきたように思います。弓道は己との戦い。頸椎ヘルニア、左手首骨折など古傷と付き合ひながら、中る射を指して、一射入魂、日々精進。奥の深い弓道を楽しみたいと思っています。

▲少年女子 11名

- 三浦 和夏(赤穂)
- 新井朝也香(松商学園)
- 山浦 美咲(上田千曲)
- 関 美穂(諏訪二葉)
- 大久保 咲(松商学園)
- 米持 奈々(長野日大)
- 駒村 直子(屋代)
- 高橋 琴乃(飯山北)
- 宮島 百香(屋代)
- 中島 冬萌(屋代)
- 藤田 櫻子(上田東)

▲成年男子 6名

- 岩原 祐貴(諏訪)
- 市川 隆光(諏訪)
- 酒井 紳一(上伊那)
- 牧内 和宏(飯伊)
- 平澤 敏弘(飯伊)
- 安藤 直貴(須高)

▲成年女子 8名

- 小澤 静香(上伊那)
- 井原 寿恵(飯伊)
- 木村 綾美(諏訪)
- 原 深雪(諏訪)
- 戸田 裕子(上小)
- 藤沢 敏恵(長野)
- 宮澤久美子(長野)
- 牧野ふみ江(佐久)

長野県勤労者弓道選手権大会 兼 第61回全日本勤労者弓道選手権大会 長野県予選会

○平成26年4月6日(日) 茅野市運動公園弓道場

▲団体

- 1位 長野県教職員B(中田真也、矢部誠一、古川忠司)

2位 エブソン2(小越剛、中西政信、若林淳一)

- 3位 塩尻市役所(宮原勝広、小嶋正則、百瀬友彦)
- 4位 泰草村役場(萩本一樹、木下浩治、松島貞治)

▲個人

- 1位 宮原 勝広(塩尻市役所)
- 2位 市川 隆光(諏訪市役所)
- 3位 百瀬 友彦(塩尻市役所)

▲技能優秀者

- 百瀬 友彦(塩尻市役所)

第70回 上信越弓道大会

○平成26年4月20日(日)

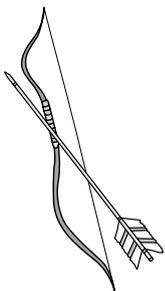
小諸懐古射院弓道場 参加人数…一般86名

▲個人の部(8射)

- 1位 古尾谷洋子(群馬) 7中
- 2位 小田切祐典(小諸) 7中
- 3位 今井 誠一(群馬) 7中
- 4位 高橋 正弘(上小) 6中
- 5位 武田 節夫(伊勢崎) 6中

▲団体の部(16射)

- 1位 小諸スマイル(小田切祐典、栗林正直、柳澤慎一、相原由美子) 10中
- 2位 桜佐久(有賀俊裕、中澤朗、牧野ふみ江、金原正) 9中
- 3位 群馬混成(今井誠一、小板橋朝雄、渡部智昭、静野忠雄) 8中



第36回 善光寺弓道大会

平成26年4月20日(日) 善光寺弓道場
参加人数:120名

▲男子

- 1位 浅石 拓真(長野高専C) 8中
- 2位 伊澤 貴幸(尚弓会) 8中
- 3位 森 祐大(信州大学A) 8中
- 4位 橋本 郁也(信州大学B) 7中
- 5位 飯田 秀樹(迷弓会) 6中

▲女子

- 1位 上條 朱美(運動公園B) 7中
- 2位 谷 敏子(おまびよん) 6中
- 3位 江村 志織(信大医学部D) 6中
- 4位 小林 希(長野高専A) 5中
- 5位 清水みつ子(善光寺C) 5中

▲団体

- 1位 信州大学A(小松崇明、松本考平、杉浦かなえ、森裕大) 21中
- 2位 尚弓会(外山勇一、永藤聡、伊澤貴幸、松倉志) 20中
- 3位 信州大学B(橋本郁也、坂田あかり、石川満範、小林咲子) 20中

第65回 全日本男子弓道選手権大会
第47回 全日本女子弓道選手権大会 長野県予選会

平成26年4月27日(日) 松本市弓道場
参加人数:男子33名、女子23名 計56名
第65回全日本男子弓道選手権大会
長野県強化選手

- 宮坂 博之(諏訪)
- 平澤 敏弘(飯伊)
- 古澤 金蔵(長野)
- 大蔵 務(須高)
- 押金 孝(上小)

第47回全日本女子弓道選手権大会
長野県強化選手

- 真関 志野(松本)
- 久保田智恵(長野)
- 藤澤 敏子(飯伊)
- 清水 和代(飯山)
- 牧野ふみ江(佐久)



第41回 近県弓道大会

平成26年4月27日(日)
長野市運動公園弓道場
参加人数:男子267名、女子232名 合計499名
(団体40射、個人4射皆中者の射話による)

▲団体男子

- 1位 長野日大高校B(高木友輔、高木大輝、金子功記、小林和樹、千野翔)

31中

- 2位 上田東高校A(鈴木優、山下光、中曾根聖也、丸山拓海、深町淳志) 27中

- 3位 北部高校A(宮坂健太、石坂辰哉、櫻井祥、佐々木雄一郎、新海龍哉) 25中

▲団体女子

- 1位 長野西高校A(保科美紀、三井由菜、増田容子、坂井あずさ、前田莉奈) 24中

- 2位 長野日大高校B(瀧澤里帆、中村聖奈、五十嵐ももな、島田莉奈、米持奈々) 22中

- 3位 松本美須々ヶ丘高校C(須賀友里加、下枝茉理奈、川上真由、西澤加奈、草深明日香) 21中

▲個人男子

- 1位 百瀬 成哲(松本美須々ヶ丘高校)
- 2位 石坂 辰哉(北部高校)
- 3位 梶山 航希(長野商業高校)
- 4位 山下 光(上田東高校)
- 5位 深町 淳志(上田東高校)

▲個人女子

- 1位 中野 由佳(長野日大高校)
- 2位 島田 莉奈(長野日大高校)
- 3位 水野 りん(上田高校)
- 4位 宮島 苑子(上田千曲高校)
- 5位 塩入 沙良(上田東高校)

第62回 飯田市民弓道大会

平成26年4月29日(火)
飯田運動公園県営飯田弓道場
参加人数:高校148名、一般32名 合計182名

▲高校男子

- 1位 伊藤 凌太(下農A)
- 2位 熊谷 秀継(飯田C)

- 3位 堀越 亮(飯田C)
- 4位 松尾 陸(風越B)
- 5位 中山 裕介(長姫C)

▲高校女子

- 1位 北原 葵(飯女A)
- 2位 新井花奈子(飯田F)
- 3位 米山あす香(飯女A)
- 4位 代田 瑞紀(飯女B)
- 5位 米山 奈帆(飯田H)

▲一般

- 1位 松枝 敏広(喬木)
- 2位 富田万希子(上飯田B)
- 3位 牧内 和宏(喬木)
- 4位 下平 春夫(上郷)
- 5位 野牧 初彦(松川)

▲団体

- 1位 飯田高校F(熊谷香奈、新井花奈子、丹羽今日子)
- 2位 飯田高校A(今村友哉、原良輔、桜井涼雅)
- 3位 飯田女子高校A(米山あす香、梶田菜緒、北原葵)

第58回 北信弓道大会

平成26年4月29日(火) 飯山市弓道場
参加人数:高校男子268名、一般男子54名、
高校女子259名、一般女子42名、
中学男子6名、中学女子11名
合計640名

▲団体

▲高校男子

- 1位 須坂B(田中敬也、保科良介、相澤貫太、池田貴弘、堀川将志) 24中
- 2位 中野立志館B(柳沢拓実、中村洋介、奈良恭太、柳沢晃亮、山口優也)

20中

- 3位 須坂A(中村優佑、高野航平、山本航平、瀧沢友貴、小林竜哉)
- 17中

- ▲高校女子
- 1位 中野西B(坂本彩夏、吉田ゆみ、小山愛、定塚浩未、金井彩夏)
- 18中
- 2位 長野吉田C(高橋もも、芋川那奈、瀧澤祐希、百瀬友李、竹田桃子)
- 18中

- 3位 長野西A(保科美紀、三井由菜、増田容子、坂井あずさ、前田莉奈)
- 16中

- ▲高校男子
- 1位 柳沢 拓実(中野立志館B)
- 6中
- 2位 田中 敬也(須坂B)
- 6中
- 3位 宮島 圭吾(飯山北B)
- 5中

- ▲高校女子
- 1位 金井 彩夏(中野西B)
- 5中
- 2位 横田 乃彩(長野東C)
- 5中
- 3位 田中 志保(須坂東B)
- 5中

- ▲中学男子
- 1位 宮尾 智哉(長野日大)
- 2中
- 2位 野田 龍輝(長野日大)
- 2中
- 3位 宮下 耀(長野日大)
- 0中

- ▲中学女子
- 1位 丸山 怜夏(長野日大)
- 3中
- 2位 岡宮 利奈(長野日大)
- 2中
- 3位 佐藤 侑紀(長野日大)
- 1中

- ▲一般男子
- 1位 江田 浩二(飯山)
- 6中
- 2位 松倉 志(長野)
- 5中
- 3位 伊澤 貴幸(須高)
- 5中
- 4位 飯田 秀樹(飯山)
- 5中
- 5位 小田切祐典(小諸)
- 5中

- ▲一般女子
- 1位 牧野ふみ江(佐久)
- 5中
- 2位 滝沢 聡子(長野)
- 5中
- 3位 夏目 澄江(中高)
- 5中

- 4位 大塚利恵子(中高)
- 4中
- 5位 塩野入裕美(中高)
- 4中

第72回 長野縣護國神社例大祭
奉納県下弓道大会

○平成26年4月29日(火・祝)

長野縣護國神社弓道場

参加人数…一般66名(男子46名、女子20名)、
高校137名(男子62名、女子75名)、
合計203名

▲高校個人の部

- 1位 久保田里美(大町北高校A)
- 7中
- 2位 林 瑞希(松商学園C)
- 6中
- 3位 高山 佑太(松本美須ヶヶ丘B)
- 6中
- 4位 塩原 峻也(蟻ヶ崎男子B)
- 6中
- 5位 平塚 竣哉(松本美須ヶヶ丘B)
- 6中

▲一般個人の部

- 1位 瀧口 真央(信州大学A)
 - 8中
 - 2位 櫻井 宏樹(信州大学B)
 - 7中
 - 3位 生田 憲克(混合B)
 - 7中
 - 4位 高際 和美(チームすぎちゃん)
 - 6中
 - 5位 白田 岳大(信州大学B)
 - 6中
- ▲高校団体の部
- 1位 大町北高校A(西澤京香、久保田里美、中島瑞紀)
 - 15中
 - 2位 松本美須ヶヶ丘B(高山佑太、長坂章太郎、平塚竣哉)
 - 14中
 - 3位 二葉A(小池邦憲、関美穂、上嶋諒也)
 - 14中
- ▲一般団体の部
- 1位 信州大学A(齋藤利仁、瀧口真央、江本昂平)
 - 19中
 - 2位 信州大学B(相田浩史、白田岳大、櫻井宏樹)
 - 17中
 - 3位 チームM(関正幸、土屋文孝、丸山三夫)
 - 14中

第41回 佐久鯉祭弓道大会

○平成26年5月5日(月・祝)

駒場公園弓道場

参加人数…高校72名、一般114名 合計186名

▲一般個人の部(8射)

- 1位 清水 北登(上小支部)
- 8中
- 2位 今井 誠(群馬県)
- 7中
- 3位 小池 君男(長野支部)
- 6中

▲高校団体の部(24射)

- 1位 野沢北A(渡邊倫、佐藤勇希、水間和哉)
- 16中
- 2位 佐久長聖C(小澤慶仁、小須田陸、矢島健太郎)
- 15中
- 3位 小諸A(土田歩実、小山田理夏、湯本吉一)
- 13中

小満祭弓道大会

○平成26年5月18日(日) 白田弓道場

参加人数…一般110名

▲個人の部(12射)

- 1位 清水 北登(上小)
- 12中
- 2位 亀岡 英司(南佐久)
- 11中
- 3位 柴 翔太(諏訪)
- 10中

▲団体の部(36射)

- 1位 上田東(鈴木優、藤田櫻子、深町淳志)
- 26中
- 2位 ドリーム佐久(桜井圭、町田祐介、清水北登)
- 22中
- 3位 岡谷(岩原祐貴、上野曜、柴翔太)
- 21中



弓道合宿予約随時受付中!

野辺山洗心弓道場

- 近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)
- 12人立2ヶ所
- 遠的道場 1ヶ所

帝産ロッヂ

〒384-1305
長野県南佐久郡南牧村野辺山1003
HP: <http://www.teisanlodge.com/>
ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

平成26年度ねりんピック長野県大会
兼 全国大会長野県予選会

○平成26年5月24日(土)
上田城跡公園弓道場

▲長野県大会成績(参加者33名、12射)

- 1位 堀内 正秀(上小) 8中
- 2位 白井 昌美(佐久) 8中
- 3位 山田 清夫(松本) 8中

▲全国大会(10月4~7日 宇都宮市)出場

長野県代表選手

- 監督 堀内 正秀(上小)
- 選手 堀内 正秀(上小)
- 選手 白井 昌美(佐久)
- 選手 山田 清夫(松本)
- 選手 小池 君男(長野)
- 選手 多田かほる(上小)
- 補欠 岡田 宏之(飯山)
- 補欠 水野 悦子(飯山)

第57回 近県弓道上田大会 (高校の部)

○平成26年6月1日(日)
上田市城跡公園弓道場

参加人数: 男子125名、女子119名 合計244名

▲個人男子

- 1位 浅石 拓真(長野高専) 7中
- 2位 井出 司(野沢北) 7中
- 3位 山岸 大貴(上田千曲) 7中

▲個人女子

- 1位 宮原 彩果(上田千曲) 7中
- 2位 中島 冬萌(屋代) 7中
- 3位 関谷 千星(上田) 7中
- ▲団体男子
- 1位 野沢北高校(井出司、水間和哉、渡邊倫、佐藤勇希、小林諒太) 27中

2位 岩村田高校(小澤隆史、小平颯人、中山大輔、佐藤大地、金澤太陽)

3位 上田千曲高校(今井博之、塚田龍太、倉島瞭太、井出佑馬、加藤嶺治) 25中

▲団体女子

- 1位 上田高校A(土屋香織、石和美祈、水野りん、関谷千星、市川実季) 22中
- 2位 屋代高校(宮島百香、中島冬萌、駒村直子、西村友梨香、窪田桃佳) 27中
- 3位 上田東高校A(翠川友香、清水美佳、片桐友紀、塩入沙良、石原瞳) 23中

無相大師奉賛弓道大会

○平成26年6月7日(土) 中野市営弓道場

参加人数: 一般55名

▲一般個人の部(8射)

- 1位 石田 真(飯山) 7中
- 2位 笠井 信夫(長野) 6中
- 3位 上村 茂雄(六日町) 5中
- 4位 小池 君男(長野) 5中
- 5位 荒井 孝芳(長野) 5中

第69回 国民体育大会 弓道競技
長野県最終選考会

○平成26年6月14~15日 県営飯田弓道場

▲少年男子

- 高木友輔(長野日大) 中村駿介(長野吉田)
- 富濱紘夢(岡谷南) 金澤太陽(岩村田)(補)
- ▲少年女子
- 三浦和夏(赤穂) 米持奈々(長野日大)

昇段昇格者

□「京都」定期中央審査

▽六段の部 平成26年5月4日
土屋きよみ(小諸支部)

藤田櫻子(上田東) 中島冬萌(屋代)(補)

▲成年男子 安藤直貴(須高) 平澤敏弘(飯伊)

市川隆光(諏訪) 牧内和宏(飯伊)(補)

▲成年女子 小澤静香(上伊那) 井原寿恵(飯伊)

牧野ふみ江(佐久) 原深 雪(諏訪)(補)

表彰

○平成25年度 長野県体育協会表彰
(スポーツ振興功績者表彰)

栄光章 平澤敏弘(錬士六段、飯伊支部)

勲功章 新津一夫(教士六段、長鉄支部)

お悔やみ申し上げます (敬称略)
参段 飯伊支部 平澤義一(87歳)
平成26年5月19日(月)逝去

弓道について

人生は出会いと別れの連続です。その出会いは、人であり、仕事であり、ある時は商品や技術などの場合もあります。

しかし出合いは自分にとって必ずしもプラスの場合だけでしょうか? 自分の生き方をも変えてしまうマイナスの場合もあると思います。

思い起こせば頭が下がり、あの人のお陰で今自分が弓道に出合いこの世界にいられるとただ感謝でいっぱいの出合いもあります。

しかし人には誰しも、逆に思うだけで苦しい出合いもあります。ただ弓を引けばいいと云うだけで「礼に始まり礼に終わる」武道の精神を忘れた人達との出合いもあります。

ただし良い出合い、悪い出合いはすべて自分が招くといつてもいいでしょう。同じものを見聞きしてもそれを自分のものとするか、それとも手をこまねいて見ているかはすべて自身にかかわっていると思います。

常に脇を締め少しでも「弓道」のために役に立とうと云う心を持つ時に不思議と良い出合いが生まれます。

この事こそ「弓道」を愛し「礼節」を重んじる多くの人の出合いが生まれ道が拓けてくるものと思います。

今と云う時を大切にしていってこそ「弓仲間」が「層底辺が拡大して多くの人に楽しんでもらえるような出合いであつてほしいと心から願っています。

上小支部 鷹野良信